

# 日蓮大聖人御書全集

うえのどのごへんじ

## 上野殿御返事

ほけきよう

おんいのち

こと

## （法華経の御命の事）

新版  
1869

うえのどのごへんじ ほけきよう おんいのち こと

# 上野殿御返事 (法華経の御命の事)

けんじ ねん がつ にち

建治3年(77) 7月16日

さい なんじようときみつ

56歳 南条時光

麦 一 櫃 川 海 苔 ごじよう 薑 ろつ 把 た そうら

むぎひとひとつ・かわのり五帖・はじかみ六ば、給び候い

了わんぬ。

おんこと そうら 驚 珍

いつもの御事に候えばおどろかれずめずらしからぬよ

打 覚 そうらう 凡 夫 こころ 世 間

うにうちおぼえて候は、ぼんぷの心なり。せけん

恩 々 うえ 大 宮 造 たま ひやくしよう

そうそうなる上、おおみやのつくられさせ給えば、百姓と

もう わ うち もの もう 飢 渴 もう 物 作 もう

申し、我が内の者と申し、けかちと申し、ものつくりと申し、

幾 暇 おん そうらう やま

いくそばくこそいとまなく御わたりにて候らん、山の

住

思

たま

鳥

卵

なかのすまい、さこそとおもいやらせ給いて、とりのかいご

養

灯

油

添

をやしなうがごとく、ともしびにあぶらをそうるがごとく、

枯

草

雨

降

飢

こ

乳

かれたるくさにあめのふるがごとく、うえたる子にちを

与

ほけきよう

おん 命

継

たも

あたうるがごとく、法華経の御いのちをつがせ給うこと、

さんぜ

しよぶつ

くよう

たま

じつぼう

しゆじよう

三世の諸仏を供養し給えるにてあるなり。十方の衆生の

まなこ

ひら

くどく

そうろう

たつと

もう

眼を開く功德にて候べし。尊しとも申すばかりなし。

あなかしこ、あなかしこ。恐々謹言。

きようきようきんげん

しちがつじゅうろくにち

七月十六日

にちれん

日蓮

かおう

花押